

## 2020年度第16回 国家資格キャリアコンサルタント試験

### (JCDA) 実技試験(論述) 解答例(中里)

**【問い1】** 事例ⅠとⅡはキャリアコンサルタントの対応の違いにより展開が変わっている。事例ⅠとⅡの違いを下記の5つの語句(指定語句)を使用して解答欄に記述せよ(同じ語句を何度使用しても可。また語句の使用順は自由。解答用紙に記述する際には、使用した指定語句の下にアンダーラインを引くこと)。(15点) 6行

#### 指定語句

焦点 事柄 内省 助言 ものの見方

事例Ⅰでは、在宅勤務によりオンラインという新たなコミュニケーションの形が始まったという**事柄**にのみ**焦点**を当て、それを使いこなせない自分には管理職としての能力があるのかという相談者の「焦り」や「不安」などの感情に寄り添うことなく、その解決方法として「慣れる必要がある」というCCtの表面的な**もの見方**や価値判断により**助言**をしているため、問題解決につながっていない。一方事例Ⅱでは、CCtが、相談者の中で起こっている矛盾した感情に**焦点**を当て**内省**に導くことで、自身の求めているリーダーシップの形において何が重要かについて自ら気づきを促しているため、問題解決に向かう展開となっている。

**【問い2】** 事例ⅠのCCt9と事例ⅡのCCt11のキャリアコンサルタントの応答が、相応しいか、相応しくないかを考え、「相応しい」あるいは「相応しくない」のいずれかに○をつけ、その理由も解答欄に記述せよ。(10点) 2行×2

事例Ⅰ CCt9 相応しくない

CL8での「このままだと…穏やかではない」という相談者の感情を受容、共感することなく、CCtの一方的な価値判断に基づき「…慣れていく必要がある」と相談者を否定するような断定的な応答である。

事例Ⅱ CCt11 相応しい

「自分の求めているリーダーシップの形」に対する矛盾した内的感情について尋ね考えてもらうことで、部下とのコミュニケーションにおいて何が大事なのかについて自ら気づきを促す応答になっている。

**【問い3】** 事例Ⅰ・Ⅱ共通部分と事例Ⅱにおいて、キャリアコンサルタントとしてあなたの考える相談者の問題と思われる点を、具体的な例をあげて解答欄に記述せよ。(15点) 4行

今までの経験から自身の強みを振り返ることなく、「意見が出せない」「リーダーシップが発揮できない」と思い込み自己評価が低いことから、自己理解不足である。また、上手くメンバーとコミュニケーションをとっている他の課長等に相談せず、「オンラインではコミュニケーションを積み重ねていくやり方は通用せず強いリーダーシップが必要」と思い込みがある一方、「そうなりたくない」と内的な矛盾が生じ不安になっていること。

**【問い 4】** 全体の相談者の語りを通して相談者像を想像し、事例Ⅱのやり取りの後、あなたならどのようなやり取りを面談で展開していくか、その理由も含めて具体的に解答欄に記述せよ。（10点） 6行

新たな働き方でも、メンバーとコミュニケーションをとり課内を上手くまとめようと努力している姿勢を支持し、労う。その上で、今までの仕事を振り返り、自身が得意技としていた「業務を円滑にすること」が新たなコミュニケーションツールで役立つかどうかメンバーに率直に尋ねたり、または上手くできている他の課長に相談してみてもどうかと提案する。さらに、「強いリーダーシップを望む」一方で「そうなりたくない」という内的葛藤に焦点を当て、自身の理想とするコミュニケーションには何が大事であるか考えてみることで、今まで大事にしてきたコミュニケーションの形を見直し、自らのスタイルで前向きに自信を持ち働いていけるよう支援する。